

茨城農業の担い手を育成する ～農業大学校の教育・研修～

茨城県立農業大学校は、学生が「自ら学び・考え・実践」することを教育方針に、講義と実習をバランス良く組み合わせることにより、農業に関する実務的な能力を身に付け、地域農業を担う農業経営者を育成しています。

平成21年度から学校教育法に基づく農業専門課程の専修学校となり、卒業時には、専門士の称号や4年制大学への編入学の受験資格が得られるなど新たな道が開かれました。

また、研修科では農作業安全に関する短期の機械研修を実施するとともに、平成16年度から開講している「いばらき営農塾」では、就農希望者等を対象に、営農技術の習得研修を実施しています。

部科及び学生数

部	科	修業期間	専攻コース等	22年度学生数(人)		
				1年次	2年次	計
農業部	農学科	2年	普通作・露地野菜・果樹	37	35	72
	畜産学科			6	8	14
園芸部	園芸学科		施設野菜・花き	27	22	49
農業部	研究科	2年	作物・園芸・畜産	4	7	11
合 計				74	72	146

学生の履修科目数及び取得単位数等

区 分	履修科目数	単位と時間数（時間）						教科外学習 実施時間数 （時間）
		講 義		演習・実験・実習		計		
		単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	
農業部・ 園芸部	39	48	720	32	1,290	80	2,010	212
研究科	32 ～ 37	44	660	35	1,365 ～ 1,395	77	1,995 ～ 2,025	210

特徴的な教育の取り組み



農家派遣実習

約1カ月間、農業経営士など先進的な農業経営者のもとで宿泊実習を行い、農業や農家の生活を体験しています。その結果、学生の農業に関する知識や技術が深まるとともに、将来の農業経営者としての経営感覚が養われています。

また、平成21年度から1年生を対象に、就学意欲を高めるため、農業を体験する短期(5日間)の実習を行っています。

課題解決型学習

プロジェクト学習や卒業研究では、学生が自ら課題を見つけ、計画を樹立し、計画に沿って実践し、成果を取りまとめ、反省評価する課題解決の手法を用いて、知識・技能の習得と実践能力の向上を図っています。学習成果は、校内だけでなく関東ブロックや全国農業学校等プロジェクト実績発表会などの発表の場があります。



農業大学校卒業者の就農状況

(単位:人、%)

年 度	14	15	16	17	18	19	20	21	22
項 目									
県内新規学卒就農者数	75	92	84	81	70	61	49	46	42
うち農大卒業生	30	38	24	33	23	24	23	23	18
同上割合 (%)	40.0	41.3	28.6	40.7	32.9	39.3	46.9	50.0	42.9

学生の主な資格取得の状況

資格等の種類	平成 22 年度卒業生取得者数(人)
大型特殊自動車運転免許	69
大型特殊自動車けん引運転免許	14
家畜人工授精師免許(畜産学科)	9
危険物取扱者資格	12
農業技術検定(2級)	5
農業機械士	33
農業用無人ヘリコプター	6
アーク溶接特別教育	22
小規模ボイラー取扱資格(園芸部)	23
小型車両系建設機械取扱資格(園芸部)	23



農業機械実習では、トラクターの基本操作を学び、大型特殊免許を取得します。

主な短期研修の実施状況

研修等の種類	実施日数(日間)	研修人員(人)	研修対象者
大型特殊免許取得研修	3～5	148	農大学生、農業者他
農業機械士技能認定研修	3～4	77	農大学生、農業者他
農業用無人ヘリコプター研修	15	2	農大学生
農業機械実習(大特免許取得含む)	7	71	農大学生
農業機械基礎研修	1	72	農業者
計		370	
いばらき営農塾	24～30	136	農業者
オープンキャンパス	3	136	高校生等
児童研修(収穫体験)	1	1,869	幼稚園児等
計		2,141	

研修の様子



農業機械基礎研修の実施

農業機械研修では、学生のほか農業者も対象としており、トラクターの安全走行、点検整備ロータリ耕など、農業機械の安全利用技術を習得できます。

オープンキャンパスの開催

オープンキャンパスは年3回開催しています。参加者は主に高校生で、模擬授業や実習体験を通して農業大学校の教育の一端に触れ、農業を学ぶきっかけとしています。

